2016年春のRYLAセミナー報告書

開催日時：4月29日（金・祝）～ 5月1日（日）

会　　場：ホテル・ロッジ舞洲

Rotary 第2660地区 rotary youth leadership awards

いのちをつなぐ

～感動を行動に～

【主宰】
2015~2016年度 国際ロータリー第2660地区ガバナー 立野 純三
【主管】
2015~2016年度 国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会
【ホスト】
国際ロータリー第2660地区 大阪西北ロータリークラブ

【大阪西北ロータリークラブ事務局】
〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田1-3-1-300
大阪駅前第1ビル3F
TEL：06-6347-7100
FAX：06-6347-7109 MAIL：osk1nwrc@pearl.ocn.ne.jp

2016年春のRYLAセミナー
いのちをつなぐ
～感動を行動に～
・ダイジェストムービー
・受講生とロータリーパパの感想
・写真（抜粋）
【主　管】　2015～2016年度国際ロータリー第2660地区ガバナー 高野 純
【主　催】　2015～2016年度国際ロータリー第2660地区青少年奨励委員会
【ホスト】　国際ロータリー第2660地区 天竜西北ロータリークラブ
2016年4月29日(金・祝)～5月1日(日)
会場：ホテルロージ知洲
Rotary
第2660地区
RYLA
※PCでご覧ください

目次

プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

開講式　式次第・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

基調講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

TEAM RYLA の狙いと受講生への効果・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

ロータリーパパの想いと受講生の反応・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

春のＲＹＬＡセミナーから受講生が学んだもの アンケートの集計・・・・・・・ 18

実行委員長と TEAM RYLA 担当ディレクターの総括・・・・・・・・・・・・・ 21

所感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

閉講式　式次第・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

受講生一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

4月29日　1日目　プログラム

13:00　登録開始　～　13：30　開講式

研修1

14:00　基調講演（いのちをつなぐ　～感動を行動に～）

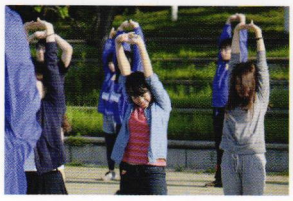
17:00　アイスブレイク（RYLA ツリー / 人間知恵の輪 /everybody stand up）

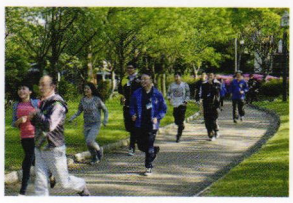
研修2

19:00　アイスブレイク（マシュマロチャレンジ）

4月30日　2日目　プログラム

7:00　朝の集い（体操 / ジョギング）





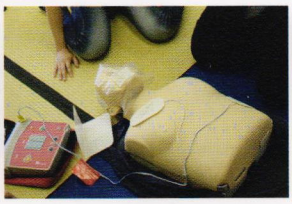
4月30日　2日目　プログラム

研修3

08:30　貿易ゲーム

研修4

12:30　AED 等を使用した救命講習



研修5

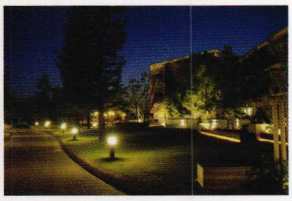
15:30　献血呼び込み大作戦

研修6

19:00　ロータリーについて

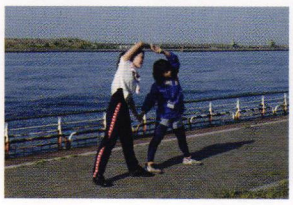
研修7

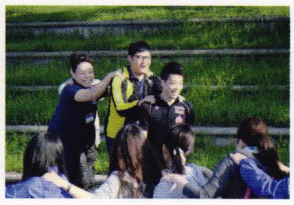
20:00　ロータリーパパとの座談会



5月1日　3日目　プログラム

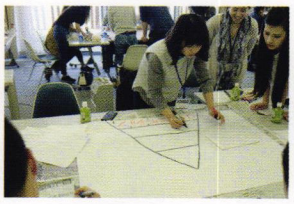
7:00　朝の集い（受講生企画の体操）





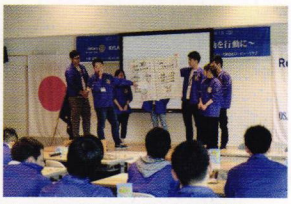
研修8

9:00　グループ発表の準備



研修9

13:00　グループ発表



14:30　閉講式

開講式　式次第

4月29日（金）13：30～14：00
司会：国際ロータリー第２６６０地区
大阪西北ロータリークラブ
幹事　隅防　武司

◆開会点鐘

国際ロータリー第２６６０地区
大阪西北ロータリークラブ
会長　瀬田川　昭俊

◆国歌斉唱「君が代」
ロータリーソング「奉仕の理想」

国際ロータリー第２６６０地区
大阪西北ロータリークラブ
ソングリーダー　井上　芳郎

◆開講宣言

国際ロータリー第２６６０地区
大阪西北ロータリークラブ
会長　瀬田川　昭俊

◆来賓来客紹介

基調講演講師	安原　武志　様	青少年活動委員会委員長	髙橋　一雅　様
基調講演講師	光武　　綾　様	ＩＭ５組ガバナー補佐	大富　國正　様
ガバナー	立野　純三　様	青少年交換委員会委員長	磯田　郁子　様
顧問　直前ガバナー	泉　　博朗　様	米山奨学委員会委員長	福田　治夫　様
ガバナーノミニーデジグネート	山本　博史　様	ローターアクト委員会委員長	丸尾　照二　様

◆主宰者挨拶

国際ロータリー第２６６０地区
ガバナー　立野　純三

こちらのＱＲコードからムービーがご覧いただけます。
挨拶文は地区 HP に掲載しております。
https://youtu.be/xCLJeYCWfMo

◆閉会点鐘

国際ロータリー第２６６０地区
大阪西北ロータリークラブ
会長　瀬田川　昭俊

いのち
を
つなぐ

基調講演

いのちをつなぐ　～感動を行動に～

【講演テーマ】

献血　みんなでつなぐ　いのちのリレー

1982 年　日本赤十字社入社

1997 年　大阪センター登録係長。献血依頼や適合血液の確保、献血登録制の推進ならびに献血者健康被害や苦情処理、骨髄バンクを担当。本社の献血受付標準手順書の作成や全国情報システムの立ち上げ等も担当。

2000 年　日本赤十字社大阪府支部 青少年係長
学校教育（児童・生徒・教員を対象）プログラムの作成や研修会を開催。国際交流等も担当し、マレーシアとの交換学生交流会を開始。

2015 年～現在　大阪センター　献血推進一副部長
滋賀県高島市安曇川町出身 現在 58 歳。

日本赤十字社
大阪府赤十字血液センター　献血推進一副部長　安原　武志 氏

今回の RYLA セミナーでは基調講演として、「献血 みんなでつなぐ いのちのリレー」を講演テーマに、日本赤十字社の安原武志先生にお話頂きました。

はじめに、わが国では献血によって医療に必要な血液が用意されており、日本赤十字社が血液事業を担っております。無償の善意による献血により賄われている国は日本しかありません。大阪では昨年 40 万人弱の方々に献血のご協力を頂きました。血液は、酸素や栄養分を運ぶ、病原体と闘い守る、出血を止めるといった生命の維持に欠かせない役割を担っており、未だ人工的に造ることはできていません。輸血用血液は社会的共有の特異な医療資源ともいえることから、病気やけがで血液を必要としている患者さんのために 24 時間体制で血液を届けております。小児ガンと闘ったお母さんと息子さんのお話や赤十字のはじまり、必要な輸血の歴史、献血の現状、輸血による副作用そして、ボランティア活動により養われるリーダーシップについてもお話ができればと考えています。

献血のお話の前に、最初に聞いて頂きたいお話があります。2006 年 12 月に小児ガンで 7 歳の生涯を閉じた上総（カズサ）くんの母、光武 綾（ミツタケ リョウ）さんをお招きしています。残る日々を過ごされた体験や輸血があったからこそ過ごすことができた体験などをお話し頂きます。よろしくお願いします。

【講演テーマ】

輝いた命の時間をありがとう

DVD「愛してるよカズ（小児ガンと闘った母親と息子の愛の記録）」
2006年12月に小児ガンで7歳で生涯を閉じたカズくんの母　綾さん。
家族のドキュメンタリー番組としても放送されました。
カズくんは生まれてから三度もガンを発病し闘病生活を送る日々。
その中で笑顔を絶やすことなく、病院や学校の関係者と接し、余命2ヶ月と宣告された息子に、思い出に残る日々を過ごさせた体験や、輸血があったからこそ過ごすことができた体験などをお話しいただきます。

医療従事者（看護師）　**光武　綾** 氏

ここでカズくんのお母さん、光武 綾さんにバトンタッチ。
過去にTV放映されたカズくんの映像をみんなで見て、「輝いた命の時間をありがとう」をテーマに貴重なお話をお聞かせ頂きました。

私の息子　光武 上総（ミツタケ カズサ）は、2006年12月9日午後5時ちょうどに7歳9ヶ月の生涯を終えました。2歳で小児悪性腫瘍の一種横紋筋肉腫を発症し、4歳と6歳の時に再発して彼の人生の半分以上は病院での生活で、その闘病生活の中の2年半は抗がん剤治療を受けていました。抗がん剤治療にはたくさんの辛い副作用がありましたが、その中の貧血、血小板減少に対してたくさんの輸血をして頂きました。貧血がひどすぎて動けない時、血小板が少なくなりすぎて鼻血が10時間以上止まらない時、どんな薬も軽減出来ないこれらの症状を輸血によって救って頂きました。血小板の減少により鼻血が止まらずその為に益々貧血が進み、飲み込んだ血液を吐きながらぐったりして喋ることすらできなくなっている息子を前に、私たち両親はとても無力でした。親つまり近親者の血液を輸血することは医学上好ましくないとされ止められていたため、抱きしめて、励ます事以外してやれることはありませんでした。そんなとき皆さんからいただいた輸血で鼻血が止まり、貧血が改善されカズがみるみるうちに元気になって行く姿を間近でみながら、輸血のすばらしさ、そして有りがたさをいつも実感していました。

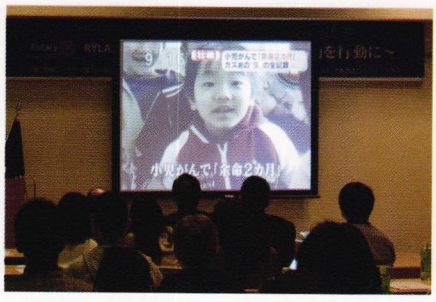
2006年の1月にカズは余命2ヶ月と診断されました。MDS。長年使ってきた抗がん剤の副作用の二次性骨髄性白血病でした。私たち夫婦は残った時間もカズらしく笑って生きて欲しいと願い、治療をやめて、カズと一緒に色々な思い出を作りました。カズの骨髄はもう自分で血液を作り出す事ができなくなっていたため、その間もたくさんの輸血が必要でした。ディズニーランド、温泉、遊園地…始業式や運動会皆さんの善意に支えられて、カズと一緒にたくさんの楽しい思い出を作る事が出来ました。そしてピカピカのカズの笑顔をたくさん胸に焼き付け

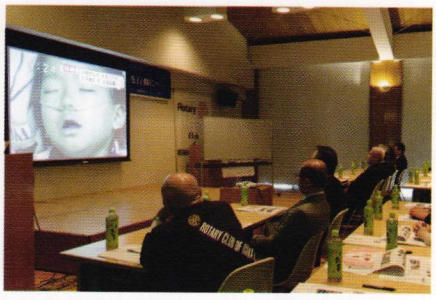
る事が出来ました。

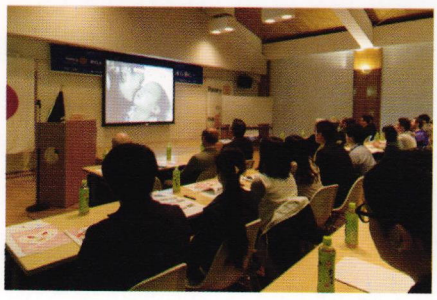
その後、カズが私の腕の中でその命を終わったとき、カズの白い欠（骨）片を狂ったように拾い集めなければならなかった時、カズのいなくなった家にカズ宛のダイレクトメールが届く時。カズのいない全ての日常が苦しくて悲しくて。何故今自分が生きていなくてはならないのか解らないほどの苦しみを幾度も経験しました。しかし、それらの出来事を乗り越える事が出来たのは、カズとの幸せな思い出があったからだと思っています。カズは亡くなる数日前に、私にいきなり「おれ、りょうちゃんがお母さんで良かった～」と言ってくれました。その言葉は、抱きしめるだけで涙が出そうになるくらい愛しているカズの『命の時間』を決めてしまったという苦しみに縛られていた私の心に優しく染み込んでくれました。もしカズとの楽しい笑顔の思い出とカズの言葉が無かったら、今、自分がここに立っていられたか自信がありません。皆さんの善意の献血は、カズだけでなく私たち残された家族も救ってくれました。

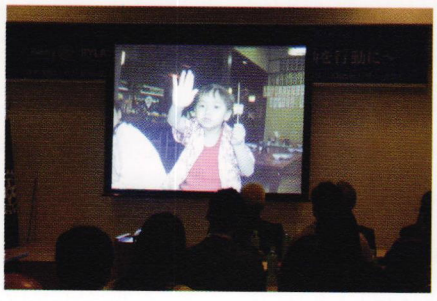
私は看護師をしていたにもかかわらず、カズが病気になるまでどのような人が輸血を必要としているのかを良く理解していませんでした。事故で輸血が必要になったり、手術をするときに必要になったりするのだろうという程度の認識しかありませんでした。しかし、カズとの入院生活のなかで、本当に輸血を必要としていて、そしてその輸血によって病気と闘いながらも希望を持って前向きに笑顔で生きているたくさんの子供達に出会いました。彼らは決してかわいそうな子供達ではありません。病室のベッドの上で辛い治療に耐えながら自分の病気を否定せず、向き合って、そしてたくさんの夢を持って頑張っています。そんな彼らの命の力になる事が出来る献血の必要性を、カズの命の映像と私のお話でもっとたくさんの人にリアルに感じてもらえたらいいなと思っています。カズは地球の平和はガメラとボウケンジャーが守っていると信じて疑わない子供でしたが、自分はクレヨンしんちゃんになって『困っている人をお助けするのだ！』といつも張り切っていました。だから輸血が近くの血液センターに無く、遠方から空輸されてくる血液を泣きそうになりながら待ったりする人がすこしでも少なくなるように、今後もカズと一緒に頑張って行けたらいいなと考えています。そしていつかカズの側に行く事を許された時に、「りょうちゃん頑張ったよ」と胸を張って、カズに報告できれば幸せだなぁと思っています。

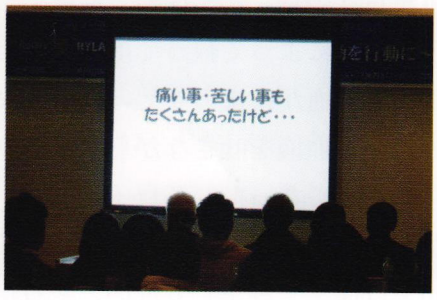
本日はこのような場に立つ機会を賜り本当にありがとうございました。カズの命を輝かせるために、たくさんの善意を下さった皆様、そして日赤の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。











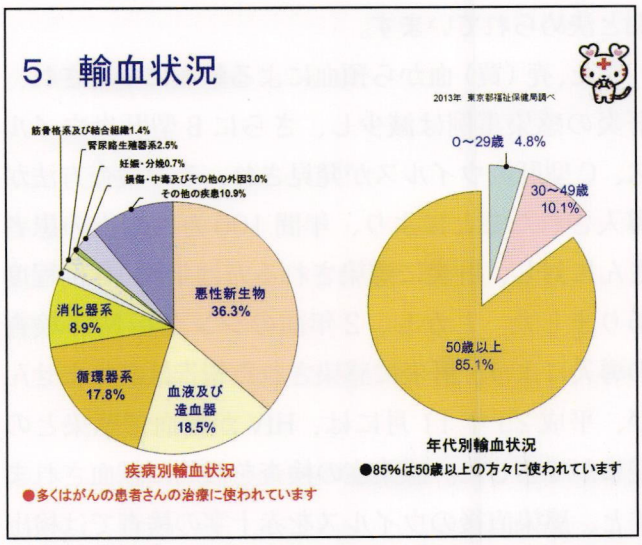
圧倒されるお話に心を動かされ、目を潤ませる受講生・ロータリアンが続出。会場全体が大きな感動に包まれました。その後、この感動を実際にリーダーとしてどう行動に結び付けていくのか、献血活動のお話を中心に再び安原先生にお話頂きました。どんなお話をしていただいたのか、以下に講演の一部を抜粋して掲載致します。

●輸血は交通事故など不慮の事故が一番多いのですか？

現在、1日平均3000人、年間100万人以上の患者さんに輸血されていることになりますが、血液は赤血球だけでもABO血液型以外に30種類以上の血液型があり、さらに白血球にも数10種類のタイプがあり、完全に一致する人は一卵性双生児ぐらいしかいません。したがって、輸血療法は、患者さんのタイプに近い血液を輸血しているため、ジンマシンや発熱等のアレルギーなどの副作用を起こしやすい治療法でもあります。

特に白血病などの血液の疾患（18.5％程度）に繰り返し輸血されています。交通事故や大きな事故で大量に使用されているようなイメージがあるかもしれませんが、実はそれらに使われる血液は、全体の数％でしかなく、一番多くはがん、次に血液疾患、循環器病の治療で使用されています。がん治療では、手術時の出血だけでなく、抗がん剤や化学療法による治療の副作用として、血液を作る骨髄細胞が破壊され、正常に血液が作れなくなり、赤血球や血小板を補充するために毎日のように血液が必要となります。輸血用血液製剤の約85％は50歳以上の方々に使用されています。今後の少子高齢化でさらに使用量は増えていくものと思われます。

また、輸血を受ける患者さんにとっては、なるべく少人数の血液を使用するほうが輸血を介するさまざまなリスクの軽減となります。大阪の医療機関では、400ｍＬ献血による血液の需要が96％を超えており、200ｍＬ献血は4％程度、一日平均30人程度、主に小児に輸血されています。自己血輸血の普及も大きく影響しています。



●献血者状況について

全国で献血受付を希望された方は、一年間で約583万人、一日約16000人、大阪では約46万人、一日約1260人でした。

大阪で献血できた方は過去4年間、40万人を下回っていますが、ほぼ変わらない状況です。しかし、10代、20代、30代の若年層の減少が続いており、20年前までは、全体の2/3は10代・20代の献血者でしたが、今では1/3程度になっております。当然、初めての献血者も毎年、減少しています。そのため、学校献血の推進も行っていますが、高校献血は厳しい状況です。全国的な統計においても10代の献血率は4.6％、全国31番目、移動献血車の400mL献血の一台平均は39.1人、31番目です。そのため、一年間に2回以上の協力をお願いし、リピート率(33.6%)を向上させることにより献血者を確保している状況です。

4. 血液センターの施設と献血者数

施設の概要

- 血液センター　47施設／附属52施設
- ブロックセンター　7施設（北海道・宮城・東京・愛知・大阪・広島・福岡）

	全国	大阪
1. 移動採血車	292台	16台
2. 血液運搬車	806台	30台
3. 献血ルーム	129施設	12施設

全国　献血者数（平成26年）	
受付:	583万人
採血:	499万人
成分献血:	139万人
400mL献血:	328万人
200mL献血:	32万人
検査不合格:	15.3万人

全国　供給本数（平成26年）	
輸血用製剤:	1,875万本
分画製剤:	59万本
合計:	1938万本

大阪　献血者数（平成26年）		
受付:	46万人	7.9%
採血:	38万人	7.6%
成分献血:	10万人	7.2%
400mL献血:	26万人	7.9%
200mL献血:	2万人	6.2%
検査不合格:	1.5万人	9.8%

大阪　供給本数（平成26年）		
輸血用製剤:	159万本	8.5%
分画製剤:	4.5万本	7.5%
合計:	163.5万本	8.4%

移動採血車1台あたりの採血数
- 4ベッド
- 1時間20人の採血
- 一日80人～100人の採血

人員	
	6～7人
・受付	1人
・看護師	3人(4人)
・検診医	1人
・接遇	1人

● 10代・20代・30代の献血離れはどうして問題になるのですか？

20年前から若い人たちの減少が始まりました。現在は40代、50代に支えられており、世界でも日本だけです。若い世代の献血離れは、

(1) 10代・20代・30代に献血経験が無いと継続して献血に協力しない。

(2) 献血経験がなく親になった場合、献血思想はその子供に伝わらない。

という将来の献血者確保の問題となります。若いみなさんに献血に関心をもって頂き、献血の知識を広めて頂きたいと思います。そのため、献血ルームではいろいろなイベントを実施しサービスにつとめています。例えば、タロット占い、ネイルケア、手相占い、抹茶サービス、似顔絵などさまざまです。ぜひ、献血ルームにお越しいただければ幸いです。しかし、わが国は少子高齢社会となり、献血においても将来の採血が決して楽観を許さない状況にあります。

●輸血されても大丈夫なの？安全性は？

血液は長期保存することができないのでしょうか？　輸血による感染症を予防するため有効期限があり、採血後の適切な温度管理により、赤血球製剤は21日間、血小板製剤は4日間、血漿製剤は1年間と決められています。

また、売（買）血から預血による献血に変更され、肝炎の感染事例は減少し、さらにB型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスが発見され、その検査方法が導入されたことにより、年間100万人以上の患者さんに対し、肝炎に感染される方は年間10例程度ありました。しかし、2年前のシングルNAT検査の導入により、肝炎に感染された報告はありませんが、平成25年11月には、HIVが輸血で感染との記事がでました。感染症の検査を目的に献血されますと、感染直後のウイルスを赤十字の検査では検出できないことがあり、献血のルールを守ってお願い致します。なお、患者さんは輸血後に感染症の検査もされており、もし発見されると血液センターに連絡があります。血液センターは原因の調査をするために献血いただいた皆さんの血液を2mLほど11年間冷凍保管しており、再度検査も行っています。このシステムは日本だけです。

しかしながら、輸血は肝炎より、ジンマシンや発熱等のアレルギー様の副作用が、年間1,600例も起こっています。その半分近くが呼吸困難やショック等の重篤な副作用で、その内の数例は死亡例を起こす危険性もありますが、代替療法がない唯一の治療法でもあります。赤十字血液センターでも20年以上前から医薬品メーカーと同様な医薬情報担当者をおき、副作用調査を全国的に行っています。

iPS細胞から血液を製造することも研究されていますが、製造時間の短縮やコスト削減のこともあり、実用化は10年以上先になると思われます。

今後ともみなさんのご理解と献血推進へのご支援をお願いし、献血運動の輪や新しい風が舞洲から大阪市、府内、日本中に、世界に広がっていくことを期待しています。

そしてこの後、安原先生が受講生に最も伝えたいと思っておられた、若いリーダーにボランティア体験を通じて考えてほしいことやリーダーシップについてのお話をして頂きました。

●ボランティア体験の必要性について

どうしてボランティア活動や奉仕活動の体験が必要なのでしょうか？ 社会人になるまでの人生は「与えられてきた」ものと言えます。大人になるということは、これからは「与える」側に変わるとも言えます。人に喜んでいただけると、相手（他人）のことを考えるようになります。すると「気づく」ことがあると思います。「考える」そして「行動」が生まれます。「意識する」と「行動する」ようになり、少しずつですが心が変化してくるのではないでしょうか？ 人をすぐに変えることはできません。しかし、態度に変化が生まれると行動が変わります。行動が変わると言葉遣いが変わってきます。すると、心も変わるのではないでしょうか。

人は何をするために生まれてきたのでしょう？ 私は人に出会うためと思っています。人間は動物と違い、出会った相手から「学習」し、自らが「成長」できます。成長するためには、「相手の立場で思いやることができるか 、いくつかの感動的な出会いを得られるか、相手に感動を与えられるか」などが大切になってきます。仕事でも同様で相手に喜んでいただくためには交渉力をみがき、双方向のコミュニケーションやＷＩＮ＆ＷＩＮの関係を築かねばなりません。コミュニケーションとは、心を伝えることであり、心を開くことです。そのために努力することは望ましい生活習慣を実践することです。その日始まりの行動や最初の「１」を大事にします。今、やるべきことをします。友達をつくります（自他を認めることです）。正義感は虐めを失くします。目標を持つと相手の意見を良く聞くようになりますし尊敬するようになります。すなわち、心を豊かにします。

また、みなさんが「喜び」を感じるときはどんなときでしょうか？ スタンダードですが、人が自分の存在に意義を見出し、自分の価値を実感できるとき、すなわち、誰かの役に立ったとき、「ありがとう」と言われたときではないでしょうか。

ボランティア活動や奉仕活動は、社会や地域の一員として自覚と責任を養い、気づきや知識を学び、技術をみがく、コミュニケーション力を高め、自主性や向上心、協調性を養い、「相合扶助（助け合い）」の精神を育てます。心を育むものです。

ボランティア活動を通じたさまざまな体験により、大きな「達成感」を得ると問題解決能力や非認知能力が高まり伸ばすことにもなります。たとえば、社会で大切な先見、ニーズの発見、リーダーシップ、コミュニケーション能力、自制心、忠誠心、物事をやり抜く力、機転、発想力、行動力など生きる力が自然に養われ、頼られる人になります。より一層、自尊（自分が大事だと思う）心が育まれます。

コインには「表」も「裏」もありません。マザー・テレサは「愛」の反対は「無関心」と言いました。「ありがとう」の反対は「当たり前」と言います。謝罪と感謝の気持ちを忘れないでほしい。良い人、悪い人はいません。良いことをした人、悪いことをした人はいます。人は良い心を持って生まれます、だから良い心を育ててほしいのです。見たものは忘れ、聞いたことは少し残り、行ったことは忘れないと言います。得た知識は実践しなければ自分のものにはなりません。

●ドラえもんは障害があったら乗り越えればよいといっています。

“正しい道を教える道具が欲しい”とのび太君の求めに、ドラえもんが取り出したのは、「コースチェッカー」です。分かれ道で使うと、それぞれの未来が最大15分間予想できるのですが、右の道も左の道も災難に遭います。頭を抱えるのび太君をドラえもんはこう叱ります。「障害」があったら乗り越えればいい！ 道を選ぶということは、必ずしも歩きやすい安全な道を選ぶってことじゃないよと諭します。

しかし、人は失敗を繰り返します。行動を起こさなければ失敗はありませんが、つまらない人生になってしまうかもしれません。しかし、できれば失敗による大きな反省はしたくありません。結果を出すために、リーダーは「結果」がでなかったという

ことは、まだまだ「準備」が足りなかったと前向きな気持ちに切りかえて気張ってほしいと思います。
京都市にある大徳寺大仙院の住職　尾関宗園さんは、
「人生とは毎日が訓練である
わたくし自身の訓練の場である
失敗もできる訓練の場である
生きているを喜ぶ訓練の場である
今この幸せを喜ぶこともなく、いつどこで幸せになれるか
この喜びをもとに全力で進めよう
わたくし自身の将来は 今この瞬間ここにある
今ここで頑張らずに　いつ頑張るのか」と言っています。

現代社会は個人を大事にすることにより、逆にコミュニケーションが苦手な人を作っているのかもしれません。相談できる「友」はいますか？多様な人々に対し学校や地域社会の目は行き届かないのかもしれません。同世代の狭い世界に閉じこもって生きる高校生や大学生、社会人がいます。学生の時にいろいろなサークルやクラブ活動、文化祭、体育祭、合唱、演劇、ボランティア活動などを通じて、先輩や社会人との対話によるナナメの関係が「自分にもできるかも」と気づく機会、必要とされる自信と勇気を作ってくれます。ボランティア活動は「新しい公共」での社会づくりでもあります。だからこそ、みなさんに心のスイッチを入れる方法として、ウィリアム・アーサー・ワード（英国の教育学者）「今、求められる指導者（リーダー）として」の言葉を贈ります。

良い指導者　「かみくだいて教える」
優れた指導者「考えさせる」
偉大な指導者「心に火をつける」
と言っています。
好きな言葉に入れていただければ幸いです。

元気でそして健康であれば、いつでもスタートはできます。自分を大事に、自分を好きでなければ他人を大切にはできません。社会で働くとは、幸せとは、喜びとは、人の役に立つことです。献血は人道支援です。血液が病院に届かなければ、手術は始まりません。健康でなければ献血はできません。健康を支えることが献血を支えることになります。みなさんの活動の１つとしてずうっと「献血運動」を仲間に入れて下さい。よろしくお願い致します。

感情を持つ人間として最も必要なことは、「出会い」を大切にすることです。出会いにより気づき、少し自分自身を変えることができませんか？

「運命」は変えられると思います。マルティン・ルター（ドイツ人・宗教改革の創始者）は「もし、明日が世界の終りだとしても、私は今日「リンゴの木」を植えます」と言いました。では、みなさんは何を植えますか？ 何を始めますか？　What is your answer？

最後に、このセミナーにより、参加されたメンバーのみなさんが、新しい目標を見つけ、新しい風を吹かせてくれるものと思っています。「笑顔」が絶えないセミナーとなりますように。みなさんの活躍に期待しています。ぜひみなさん、次回は献血会場でお会い致しましょう。皆さんとの出会いに感謝し終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

こうして２時間余りに渡る熱のこもった素晴らしい基調講演が終了しました。非常に印象に残る濃い内容で、会場全体で大きな感動を共有することができました。
今回のRYLAセミナーでは基調講演を研修の第１講目と捉えた上で、「いのちをつなぐ」ことの大切さ、「感動」をリーダーとしてどう「行動」に移していくのかを主眼に据え、後の研修プログラムを構成し実施しました。
紙面の都合上やむなく割愛させて頂きましたが、全文を地区のHPに掲載させて頂き、映像も公開させて頂きますので、是非ご覧下さい。

いのち
を
つなぐ

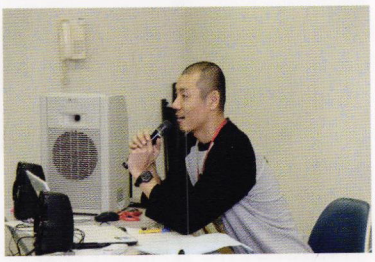
TEAM RYLAの狙いと受講生への効果

TEAM RYLAが2016年春のRYLAセミナーで伝えたかった内容を以下のようにまとめてみました。

①1日目：4月29日(金)

【緊張】：「開講式→物語の始まり」
【感動】：「基調講演→心に火をつける」
【目標】：「RYLAツリー→目標設定」
【開心】：「アイスブレイク→笑顔交換・心を開く」
【挑戦】：「マシュマロチャレンジ→組織でのチャレンジ」

②2日目：4月30日(土)



【健康】：「TEAM RYLAによる朝の集い→体を動かす」
【情報】：「貿易ゲーム→情報収集による問題解決方法を体験」
【勉強】：「AED使用による講習会→知識を学ぶ」
【実行】：「献血呼び込み大作戦→知恵を集める」
【見聞】：「ロータリーについて→未知の世界を知る」
【知恵】：「ロータリーパパとの座談会→人生の先輩の経験から知恵を学ぶ」

③3日目：5月1日(日)

【率先】：「受講生による朝の集い→自ら行動する」
【議論】：「グループ発表の準備→テーマについて考え議論する」
【表現】：「グループ発表→成果を共有する」
【希望】：「閉講式→お別れ、"自分"の新たな物語の始まり」

上記に「【】」の中に羅列しているキーワードの内、どれぐらいが伝わったかは、各自が与えられている状況によって、異なると思います。また、他のキーワードが伝わったかもしれません。
しかし、1日目の「感動」と3日目の「希望」の2つのキーワードだけは、仕事をしながらでも、勉強をしながらでも、色々な生活の場面で、ずっと覚えて頂ければと思います。
そうすれば、思いを、感動を、行動にすることが一歩早く実現できると思います。

今回のRYLAセミナーでは、ご参加くださったたくさんの受講生の皆様、ロータリアンの皆様のおかげで、新たなたくさんの学びがありました。
その学びをもとに、私たちTEAM RYLAも、感動を行動にできるように、これからも希望を持ちながら前に進めて参ります。ありがとうございました。

TEAM RYLAの狙いと受講生への効果

TEAM RYLA リーダー 八木 孝紀の所感

3日間を無事終えまして、いつも思うことはやはりホッとしています。これまでRYLAセミナーの流れから今回のRYLAは大きくアピールができないといけないと考えておりました。

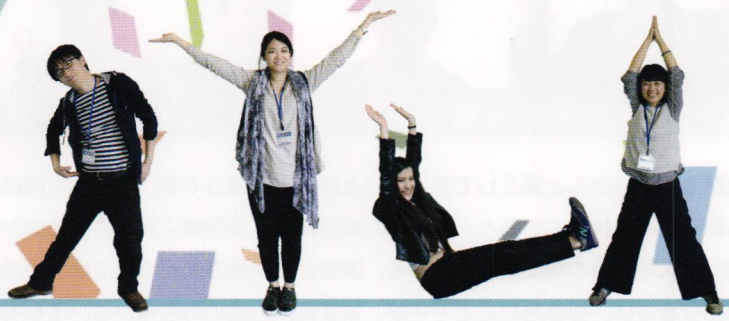
大阪西北ロータリークラブが掲げていただきました【三位一体】。それぞれが成長をする、というところが体現されており、数多くの実行委員会を開催される中で感じることができたのが印象的です。

プログラム内容に関しましても、テーマ【いのちをつなぐ】～感動を行動に～にぴったりとはまっているものでした。TEAM RYLAが担当させていただいた【献血呼びこみ大作戦】なるものも、ちょうどテーマとリーダーシップを兼ね備えられたプログラムとすることでき、さらには実行委員会メンバーの方々ともプログラムの中身の調整もすることでき、非常に満足度の高い内容とすることができました。

今回のRYLAの達成度は自分の中では、最もよいもので一つ今の自信に繋がっています。
【三位一体】この成功例から、これからの運営の基礎を作っていければと思います。沢山の学びをいただきましたこと、ここに感謝申し上げます。ありがとうございました。

いのち
を
つなぐ

ロータリーパパの想いと受講生の反応



ロータリーパパ　1班　　小嶋　敦

リーダーやリーダーシップを巡る議論は非常に古くて新しいテーマであり、一般的には「組織における共通目標を達成するために組織構成員に働きかけて、彼らの力を最大限に引き出し、結集して、効率よく使う事」とされています。リーダーシップのタイプは３～６程度に分類されますが、目標の難易度、組織の力量、期間等により各タイプの成果が変わってきます。リーダー以外がリーダーシップをとることさえあります。ハマちゃんの母国に因んでネーミングされた我が１班「スフィンクス」の発表では、図らずも各自の理想とするリーダーシップ像を列挙する形となりましたが、個人の多様性を尊重すると複数のリーダーシップのとり方があることを再認識できたのではないかと思っています。マザー・テレサの名言として知られる言葉に（実はエリ・ビーゼルさんらしい）「愛の反対は憎しみでは無く無関心 (The opposite of love is not hate, it' s indifference)」というのが有ります。研修の経験を活かし、好奇心と積極性をもって失敗を恐れずにこれからの生活や仕事に役立てて貰えれば今回の研修は大成功だと思います。

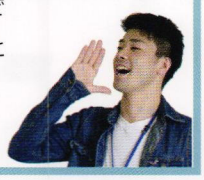
ロータリーパパ　2班　　浦野　修明

ＲＹＬＡの目的であるリーダーとは何か？この３日間を通じて、すこしでも「気づき」があったのか、できたのか？と自分自身に問いかける、貴重な時間でした。

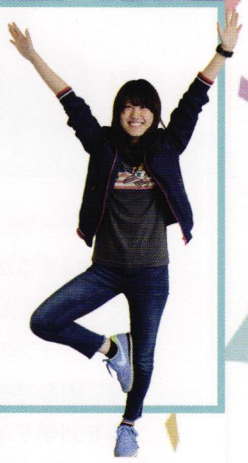
「いのちをつなぐ・感動を行動に」リーダーとして行動できる人＝もしものとき、私もあなたも知識をいかして行動できるのか？大きな課題であります。学んだ事を実践できる人、本や教科書ではできない事を実践する思いと志しを、受講生と共に学び、共に思いを継続する事が必要だと思います。ロータリーパパを務めさせて頂いた私自身まだまだ未熟な人間であります。今回のＲＹＬＡを通じ受講生から多くの事を学ばさせていただきました。

リーダーシップとは学びと経験を継続し適格な状況判断と人の話しに耳を傾ける力、また周りの人たちに常に感謝できる人が人を引付ける能力が高い人であり、そして（小さな気づき）を行動に変える人であると思います。一期一会・同じ学びの人と人が、「感動を行動に」継続して志しを高くもてればと思います。

皆さんと学べた３日間 心より感謝します。



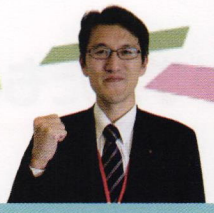
ロータリーパパ　3班　　田中　和雅



若い受講生のみなさんと過ごして感じたことは、次の通りです。どんなに時代が移り変わっても、若者はいつも同じ悩みを持っていると。例えば、自分がどんな職業に適しているのかわからず不安である。職場や学校での人間関係の構築が苦手である。家族との距離感をどう保てばよいのかわからない等。その解決の糸口になるのは、初歩的なことですが、まず他人の話に耳を傾ける、そして、自分だったらどうするか、どう行動するのかを一緒になって考えてみることではないでしょうか。ロータリーパパとの座談会で、みなさんの話をうかがい、一人一人にヒストリーがあり、熱い思いがあることがわかりました。受講生のみなさんが他の受講生の熱弁に引き込まれている様子をみて、本当に感動しました。この研修は受講生だけでなく、パパが一番勉強させてもらったように思います。ありがとうございました。

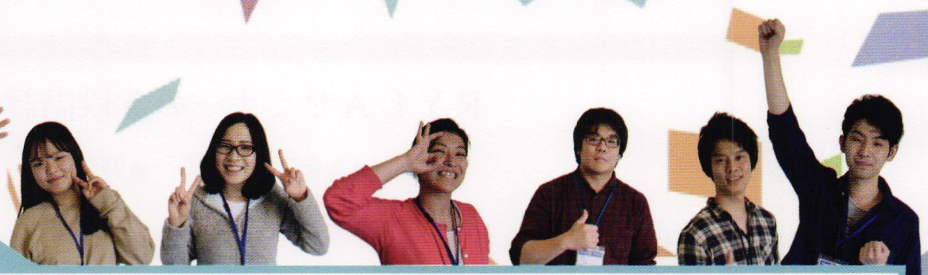
ロータリーパパ　4班　髙士　誠司

リーダーシップって何？　**RYLA** はこれからを担う若者がこのテーマに向き合うプログラムなのですが、わが班のあるメンバーからは「リーダーシップを議論するのは日本だけ」といった指摘が出たりして、実に**つかみどころがない。**それでいて私「ロータリーパパ」から見て、わが班のメンバーは**それぞれの個性において素晴らしいリーダーシップを発揮**していた、という実感があります。１日目のアイスブレイクから積極的にその主旨を理解してチームにはたらきかけてくれるメンバーもいれば、最初は様子見のメンバーもいました。しかし、２日目の貿易ゲームでは**リーダー**になったり**フォロワー**になったり**刻一刻、役割が入れ替わっている**現場を「パパ」として目の当りにしました！また残念ながら勝てなくて皆で悔しがっている姿も目に焼きついています。最後の発表では良い意見が出たにもかかわらずまとめきれず苦労している姿も目にしました。さてみなさん**リーダーシップ**って何？**安原先生・光武さん**の基調（貴重）講演からどんなリーダーシップを感じましたか？？



ロータリーパパ　5班　　井上　芳郎

「出来るだけパパは口を出さないように」と言われつつも、受講生の皆さんがどう「リーダーとしての行動」に気付いてくれるのか、そのヒントを醸し出す（唆す？）ことに腐心しました。うちの班は、途中までお互いになかなか上手くコミュニケーションが取れず、苦労しているようでしたが、私は失礼ながらある程度放置していました。しかし、成果発表の準備の中で、「オレについて来い」的なステレオタイプなリーダー像だけではなくて、いろいろなタイプのリーダーがいてもいいこと、リーダーはその場の役割にすぎず、また複数いる場合もあること、目標に向けチームのみんなのために何ができるかを考えるだけでも十分役割を果たせていること、などにみんなで気付いたあたりから急に議論が噛み合い始めたように思います。お互いに相手を思いながら議論し、少しずつでも前進させ、妥協点を探っていく中で、みんなが納得できる結論を導き出す、その過程がリーダーシップそのものであったように思います。議論の過程という形のないものですが、行き詰った時に思い返してもらえればと思います。私も優秀な若い皆さんとともに、非常に有意義な２泊３日を過ごすことができたことをとても感謝しています。



ロータリーパパ　6班　　西ノ内　猛宏

パパに選ばれた時にまず考えた事は、「何をすべきか？」「何が出来るか？」でした。「いのちをつなぐ」という昨年に続く深すぎるテーマ。受講生を目の前にして決心した事は、この２泊３日で受講生が「いかに満足して終了できるか？」「何か一つでも解決なり成長が出来るか？」を念頭に置きそれを達成することを目標としました。結果的には、プログラム毎に都度質問に応え、一緒に考え、回答を出し、また現実の悩みなどの相談にも応える事が出来たことは、多少の役に立てたのではないかと実感し満足しています。

ロータリーパパ　7班　　最上　次郎

正直申し上げて、当初は何をしたらよいのか悩みながらRYLAが始まりました。３日間通して、「受講生が主役。パパの意見を伝えるのではなく、皆の意見を聞いて、自分も考えよう。」という考え方で向き合いました。一つだけアドバイスをしたのは、「リーダーシップとは何か」を考える上で、「リーダーシップは必要か」という原点に戻って考える視点です。この意地悪な視点をきっかけに、それぞれの受講生が、自分の頭でいつもより深く考え、「コミュニケーション力」、「判断力」、「決断力」といった、ありふれたキーワードではなく、自分の言葉で表現してくれたと思います。RYLAを通じて受講生の方一人一人が、「他人を意識することがリーダーシップの出発点である」ということを体感してくれたと確信しています。私も含め、受講生が笑顔で３日間を積極的に過ごすことができたので、満足しています。ありがとうございました。

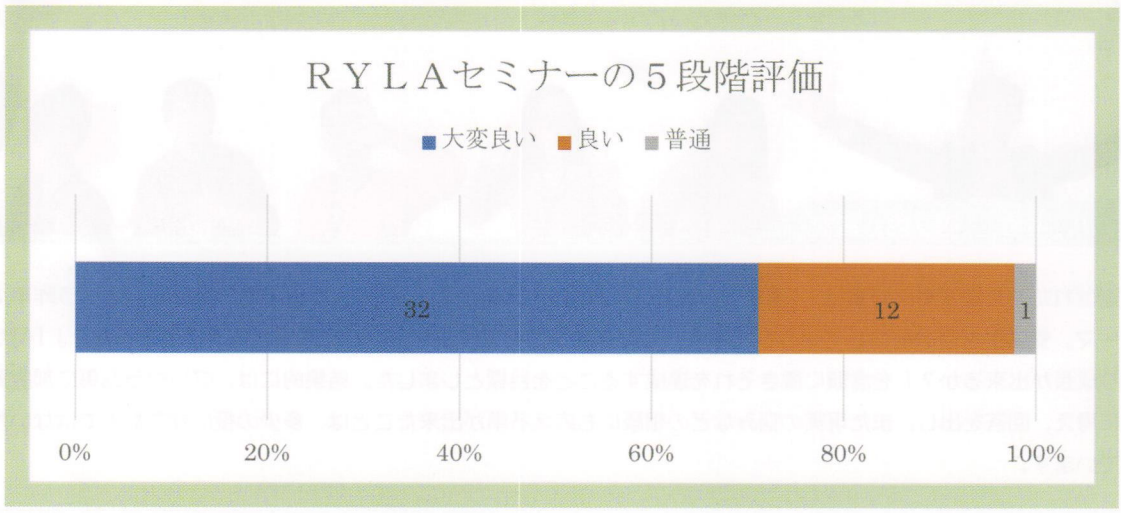
いのち
を
つなぐ

春のＲＹＬＡセミナーから受講生が学んだもの

～ アンケートの集計 ～

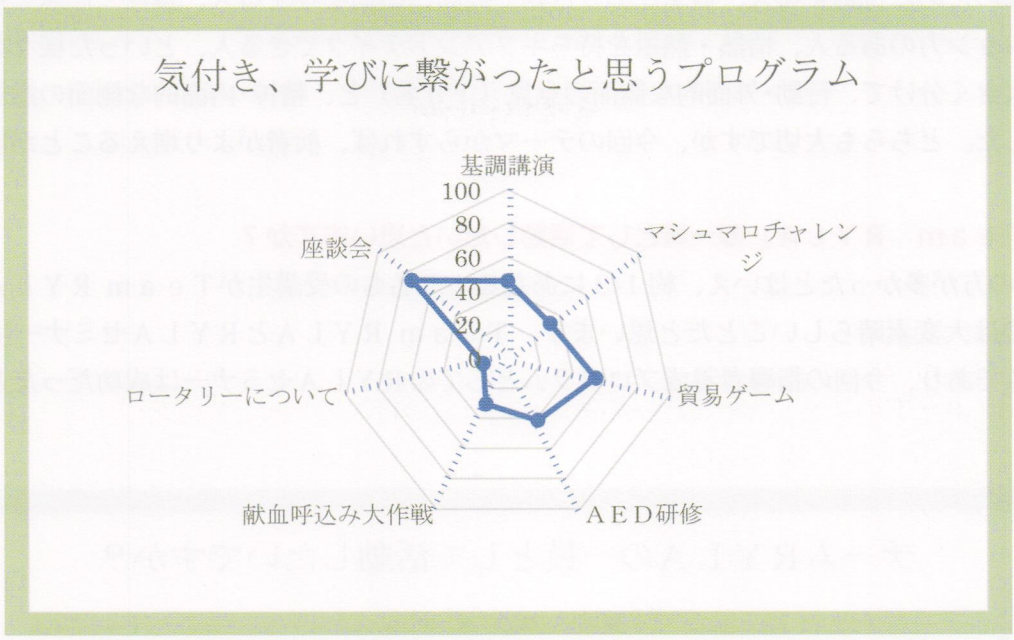
ＲＹＬＡセミナーは、ロータリー指導者養成プログラム（Rotary Youth Leadership Awards）のことであり、若い人々の中にある、指導者としての資質を啓発すると共に、青少年指導者としての知識と技術の向上を図ることを目的として、３日間を通じて様々なプログラム（講演、研修、討議、ゲーム）が行われました。２０１６年春のＲＹＬＡセミナーの参加者が、この行事に参加して何を得、何を学んだのか、今回の受講生４６名のアンケートから探ってみたいと思います。

【設問１】今回のＲＹＬＡセミナーを５段階評価すると？
５段階で問う設問に対する回答は次の通りでした。（１名は未記入でした）



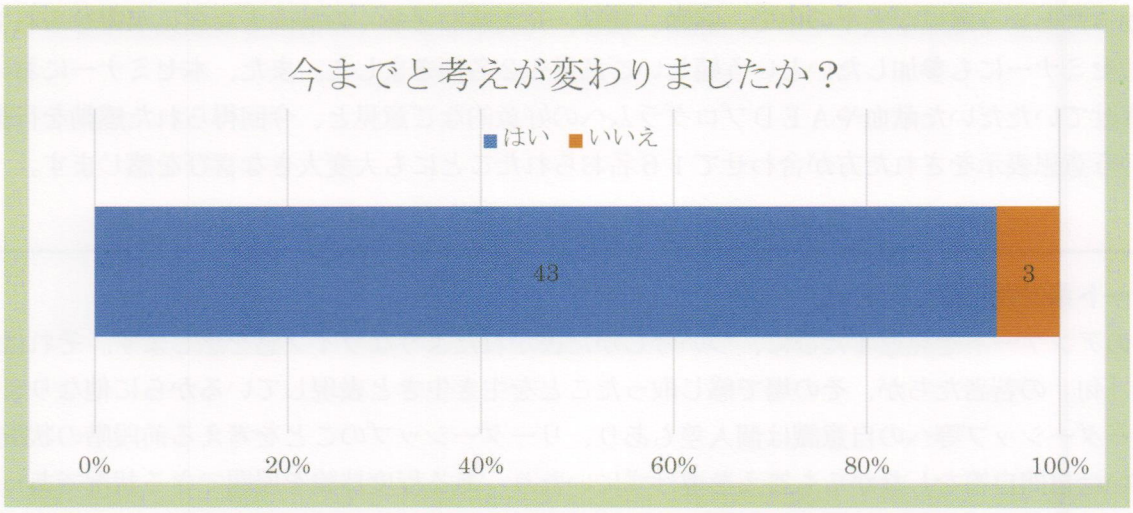
７割の受講生から最高評価「５」を受け、「４」を加えると９５％であったことから、まず今回のＲＹＬＡセミナーは総合的には好評価であったといえます。しかし、別の見方をすれば約３割の受講生が最高評価をつけなかったとも言え、何らかの改善すべき点を感じていたのも明らかです。「３」の方は、事前案内の不親切さ、“集合時刻”と“開始時刻”の管理が曖昧でありプログラムの進行に影響していた、とご指摘されています。寝る時間が少なかったというご意見もございました。

【設問２】今回のＲＹＬＡセミナーで、気付き、
学びに繋がったと思うプログラムとその理由を教えてください。（複数回答可）



座談会の人気が際立っており、受講生の７割以上に支持されていることが分かりました。パパ（ロータリアン）と深く話し、交流が出来、また他の受講生の体験談も大変勉強になったと評されていた方が７名おられました。他のプログラムと異なり、スクール形式を取らずにロータリーパパを中心としたグループ内で意見を交錯させる経験ができたのは多くの受講生に有意義だったと感じられたようです。次いで、貿易ゲーム。チームワークやコミュニケーションの大切さについて気付き、学びが多かった、失敗やその振り返りから実際に役に立つと思った、さらには、リーダーシップのヒントが得られたと１５名が記しておりました。一方で座学的要素の強い「ロータリーについて」を挙げた受講生は少なく、食事（ＢＢＱ）後であったことを考慮しても、受講生にロータリーを伝えるには、もう少し工夫する必要がありそうです。

【設問３・４】今回参加して、今までと考えが変わったことがありますか？



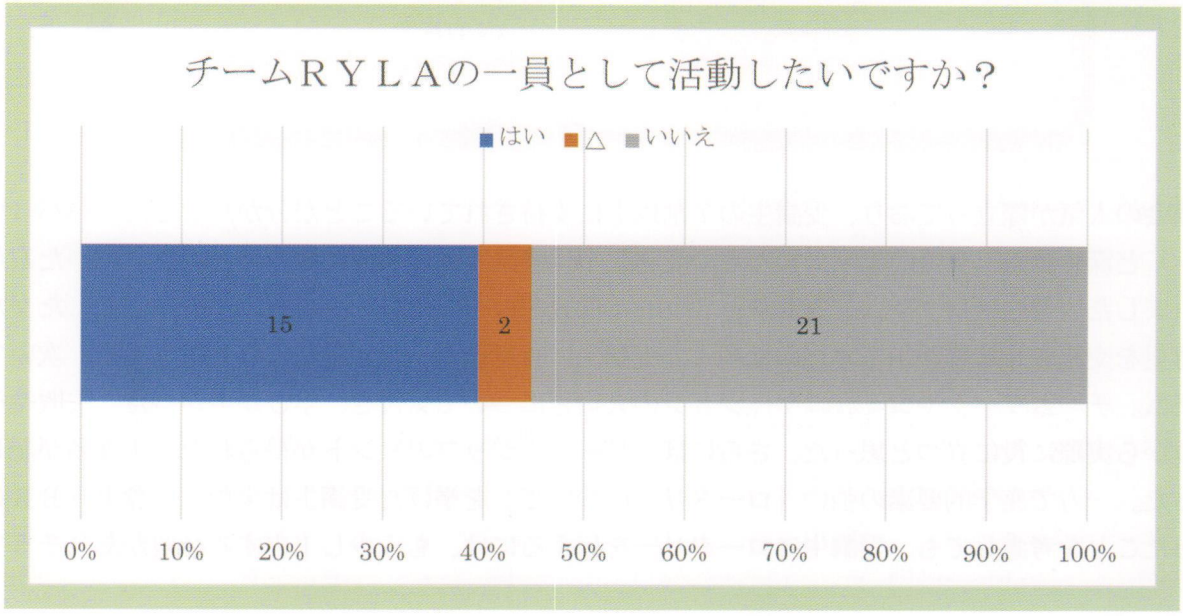
３名の「いいえ」があり、そのうちの２名が海外留学生でした。日本語でのコミュニケーションが障壁になっている可能性があり、今後の課題の一つです。「はい」の中で「献血」への姿勢の変化を示された方が５名、サブテーマである「感動を行動に」を挙げた方が３名おられたのは、このテーマを選択したホストクラブとしては有難く思います。

【設問５】あなたの思うリーダーシップとは？

様々な意見が出ました。個性を理解し全体を導く人、他者に行動を起こさせる人、他人の長所を引き出す人、みんなのために行動する人、信念があり行動で周囲へ影響を与える人、責任・信念を持つこと、コミュニケーション力のある人、情熱・熱量を持ちギブアンドテイクできる人、といった様々な意見がございました。大きく分けて、行動･外面的な側面の意見（１９名）と、精神･内面的な側面の意見（２６名）に分かれました。どちらも大切ですが、今回のテーマからすれば、前者がより増えることが望まれます。

【設問６】「Ｔｅａｍ　ＲＹＬＡ」の一員として活動したいと思いますか？

「いいえ」の方が多かったとはいえ、約1/3にあたる１５名もの受講生がＴｅａｍ ＲＹＬＡの活動に興味を持ったのは大変素晴らしいことだと思います。Ｔｅａｍ ＲＹＬＡとＲＹＬＡセミナーに関心を持ったことの表れであり、今回の指導者養成プログラムとしてのＲＹＬＡセミナーは成功だったといえると思います。



【設問７】感想を自由に記載してください。

楽しかったという意見が大半の中で、感動、発見、充実感など多くの前向きな意見が寄せられていました。秋のセミナーにも参加したいという嬉しいご意見も２名頂きました。また、本セミナーにおいて独自に設けさせていただいた献血やＡＥＤプログラムへの好意的なご意見と、今回得られた感動を行動に繋げたいという意思表示をされた方が合わせて１６名おられたことにも大変大きな喜びを感じます。

■アンケート集計から感じたこと

受講生のアンケートを見返すたびに、つい今しがた書かれたようなライブ感を感じます。それはまさに感性豊かな「旬」の若者たちが、その場で感じ取ったことを生き生きと表現しているからに他なりません。もちろんリーダーシップ等への自意識は個人差もあり、リーダーシップのことを考える前段階の状況であったり、あるいは自問自答をしながらも答えを導けずにいたり、ある程度持論を展開できる状況であったり、皆様々ではありますが、いずれにしましても成長力を感じさせる「旬」の若者たちとＲＹＬＡセミナーの時間を共有できたことは、私達ロータリアンにとっても大きな財産となりました。今回のＲＹＬＡセミナーに携わった、多くの方々に感謝いたしまして、本稿を締めたいと思います。ありがとうございました。

実行副委員長　柴崎秀樹

いのち
を
つなぐ

実行委員長とTEAM RYLA担当ディレクターの総括

勝亦実行委員長の総括

＜結局、西北ＲＣメンバーが一番学びました＞

今回のセミナーでは、受講頂いた社会のリーダーたらん若者の背中を、素直な感動で行動へとポンと押してあげたいと思いました。結果、「破格のご協力を頂いた講師の方々」「我々の狙いを受入れ実現されたTEAM RYLA」「熱心だったロータリー参加者」の“三位一体”となった皆様のお力で無事に終えることが出来、実行委員長として皆様に心よりの感謝を実感しています。

キックオフから報告書作成までの１２ヶ月の私の総括として、セミナーから３ヵ月経ち、セミナーを冷静に振り返る事が出来るこのタイミングで今回のロータリーパパ達にアンケートを実施しました。その結果の一部を持って、私の総括にさせて頂きます。担当させて頂き、皆様、本当にありがとうございました。

1）	RYLAセミナーは良かった？	○凄く良かった　58%　○良かった　42%
	事由例：○真剣になれた　○地区・他クラブ・TEAM RYLA・RAC等、外部との交流	
2）	印象に残ったプログラムは？	○皆さんの回答をまとめると全プログラムでした
3）	ロータリーパパを引受けて？	○良かった　100%
	事由例：○ロータリーパパ自身がリーダーシップ研修を受けている気がした ○今回受講した若者達の持つ将来性を実感できた	
4）	受講生はテーマを理解したと思いますか？	○まずまず　86%　○はい　14%
	○２泊３日を考えると充分だと思う　○常にテーマを念頭に行動していた	
5）	RYLAセミナーについて	
	・２泊３日の期間	○丁度良い　86%　○長すぎる　14%
	・プログラム量	○丁度良い 100%
	・TEAM RYLAの活動	○期待通り　57%　○素晴らしい　43%
6）	最後に一言	
	○我々に研修を実行するスキルが無い以上TEAM RYLAとの連携は必須 ○ロータリーパパ全員が、皆様への感謝の言葉でした	

TEAM RYLA担当ディレクターウォンジさんの総括

2016年春のRYLAセミナーにご参加くださった皆様！お疲れ様でした。

今、皆様の心には、どのような感動がありますか。また、その感動をどのように行動したいと思いますか。RYLAセミナーでは、「いのち」がくれる感動を皆で共有しました。その感動を行動にするためには色んな能力が必要でしょう。その能力が何かは、人それぞれ考え方が違うと思いますが、「リーダーシップ」という言葉に含まれているものではないかと思います。

この３日間のRYLAセミナーに参加したから、すぐリーダーシップがある人になることはないでしょう。しかし、参加した３日間、１分、１時間、１日の時間が経つ度に私達には色んな変化と気づきがありました。その変化を、気付きを、これからも続けて起こしていきたいと思います。今、私の心には、皆様から頂いた雄大な拍手の振動がまだ響いています。その感動をこれからのTEAM RYLA活動に、仕事に活かしていきたいと思います。もし、皆様も今回のRYLAセミナーで感じた感動をまた感じたい！と思うのでしたら、ぜひTEAM RYLAへ！　ありがとうございました！

いのち
を
つなぐ

所　感

こちらのＱＲコードから
ムービーがご覧いただけます。
https://youtu.be/tDlkKUV3lh8

国際ロータリー第２６６０地区
青少年活動委員会　　委員長　髙橋　一雅

受講生の皆さん、ロータリーパパの皆さん、ＴＥＡＭ ＲＹＬＡの皆さん、３日間お疲れ様でした。また、ホストクラブの大阪西北ＲＣの皆さん、地区委員をはじめ参加頂いたロータリアンの皆さんお疲れ様でした。

ＲＹＬＡセミナーは皆さんの気持ちをどう変えたでしょうか。このセミナーは体験型セミナーで、その成果は数値で測れるものではありません。３日間の体験すべてがＲＹＬＡセミナーなのです。これからリーダーになる人も、ならない人も、この体験で自分に何ができるか、どうしたいか、そして、どんな人間を目指すのか。それらを考える起点にして欲しいと思います。

ロータリアンの我々もいろいろ学ばせて頂きました。３日間、皆さんを見ていると、１日目より２日目、２日目より３日目と、よりスピードとパワーを感じました。グループの中で、自分の存在をしっかり作っている。成功や失敗、感動は体験した人でなければ、本当の理解はできません。その体験が多ければ多いほど、相手の気持ちを理解し、信頼を与え、共に歩むことができます。

今回のテーマは「いのちをつなぐ～感動を行動に～」です。元尼崎市長の白井文さんは、在任中にＪＲ福知山線の事故を経験されました。事故直後、市役所の災害対策本部に駆けつけたそうです。当時は、自然災害の対策マニュアルはありましたが、このような事故のものはありませんでした。どうしたらよいのか、集まった市の職員の前で、頭の中が真っ白になったそうです。しかし、災害対策本部長として、皆さんに指示を出さなければならない。そして、２つだけ言われたそうです。

まず一つ目、「被害にあわれた方を、自分の家族だと思って対処してください。」そして、二つ目、「すべての権限は現場に委譲します。皆さんは、今からすぐ現場に行ってください。以上、解散！」この後すぐ、警察から現場近くの市の体育館に、「亡くなった方を安置させるのに体育館を使わせて欲しい。」と、連絡が入ります。体育館の職員は即刻ＯＫ！と応えられたそうです。これが、リーダーシップではないでしょうか。

皆さんは、ＲＹＬＡセミナーで、いろいろな体験をしました。ＲＹＬＡセミナーは今日で終わりますが、ＲＹＬＡセミナーの皆の顔を思い出してください。そして、ひとつでも行動に移してください。献血もそのひとつです。自分を信じて、まず行動してください。これからの皆さんの人生は、豊かで楽しいものに違いありません。それこそが、このＲＹＬＡセミナーの成果です。皆さん、有難うございました。

閉講式　式次第

5月1日（日）14：30～15：00
司会：国際ロータリー第２６６０地区
大阪西北ロータリークラブ
幹事　隅防　武司

◆開会点鐘

国際ロータリー第２６６０地区
大阪西北ロータリークラブ
会長　瀬田川　昭俊

◆来賓来客紹介

基調講演講師	安原　武志	様	青少年活動委員会委員長	髙橋　一雅	様
ガバナーエレクト	松本　進也	様	秋のＲＹＬＡセミナーホストクラブ会長	木本　直弥	様
ガバナーノミニーデジグネート	山本　博史	様	ローターアクト代表	白川　史人	様

◆主宰者挨拶・修了証書授与

国際ロータリー第２６６０地区
ガバナーエレクト　松本　進也

こちらのＱＲコードから
ムービーがご覧いただけます。
挨拶文は地区 HP に掲載しております。

https://youtu.be/eLmSsH77Ras

◆所感

国際ロータリー第２６６０地区
青少年活動委員会
委員長　髙橋　一雅

◆ローターアクト代表挨拶

国際ロータリー第２６６０地区ローターアクト
代表　白川　史人

◆ＲＹＬＡ旗引継ぎ
秋のＲＹＬＡセミナー ホストクラブ会長挨拶

国際ロータリー第２６６０地区
大阪アーバンロータリークラブ
会長　木本　直弥

◆閉講宣言 / 閉会点鐘

国際ロータリー第２６６０地区
大阪西北ロータリークラブ
会長　瀬田川　昭俊

こちらのＱＲコードから
ムービーがご覧いただけます。
挨拶文は地区 HP に掲載しております。

https://youtu.be/6LlEYV_meRc

受講生一覧

班	ロータリーパパ	氏　名	推薦クラブ
1	小嶋　敦	ファイド・ハーメッド	大阪東淀ちゃやまち
		久保　義次	茨木西
		橋詰　昌幸	大阪北
		岩田　樹奈	大阪西南
		前田　優貴子	大阪南
		松浦　早織	池田
		緒方　裕介	東大阪
2	浦野　修明	伊藤　温子	大阪北
		サンウィンモー	大東中央
		上野　竜希	茨木（追手門学院大学）
		坂口　崇大	大阪平野
		沢田　賢吾	池田くれは
		井川　亜里紗	吹田
		徳山　勝浩	大阪御堂筋本町
3	田中　和雅	TRAN THE ANH	大阪城北
		大原　康史	吹田
		松岡　豪	ガバナー事務所
		眞田　明日香	大阪西南
		髙士　夏菜子	大阪西
		岸本　果芙紀	大阪北
		浅里　南	吹田江坂
4	髙士　誠司	早川　秀輝	東大阪
		野見山　徳人	吹田西
		甲斐　有貴	東大阪みどり
		藤山エリカ広美	箕面千里中央
		是枝　美咲	大阪西南
		エリナ・ヴァンハーホ	東大阪東
		中谷　美紗子	大阪北
5	井上　芳郎	Joshua Paul SCHECTER	大阪船場
		小林　恒平	大阪北
		宮脇　将司	大阪
		辻　　彩花	大阪なにわ
		是枝　祐里佳	大阪西南
		角森　千里	大阪城東
6	西ノ内　猛宏	安　　娜延	大阪帝塚山
		鎌田　広大	大阪西北
		村上　凌	東大阪
		高橋　遥一朗	池田くれは
		藁科　みゆき	吹田
		梶本　もな	大阪北
7	最上　次郎	呉　　国順	大阪西北
		大角　慶規	大阪東
		井野　哲	吹田西
		毛尾　友紀	大阪御堂筋本町
		南畑　蛍	茨木（追手門学院大学）
		有馬　ルミ	大阪北梅田

Rotary
第2660地区

rotary youth
leadership
awards